

Sport
Godzilla®

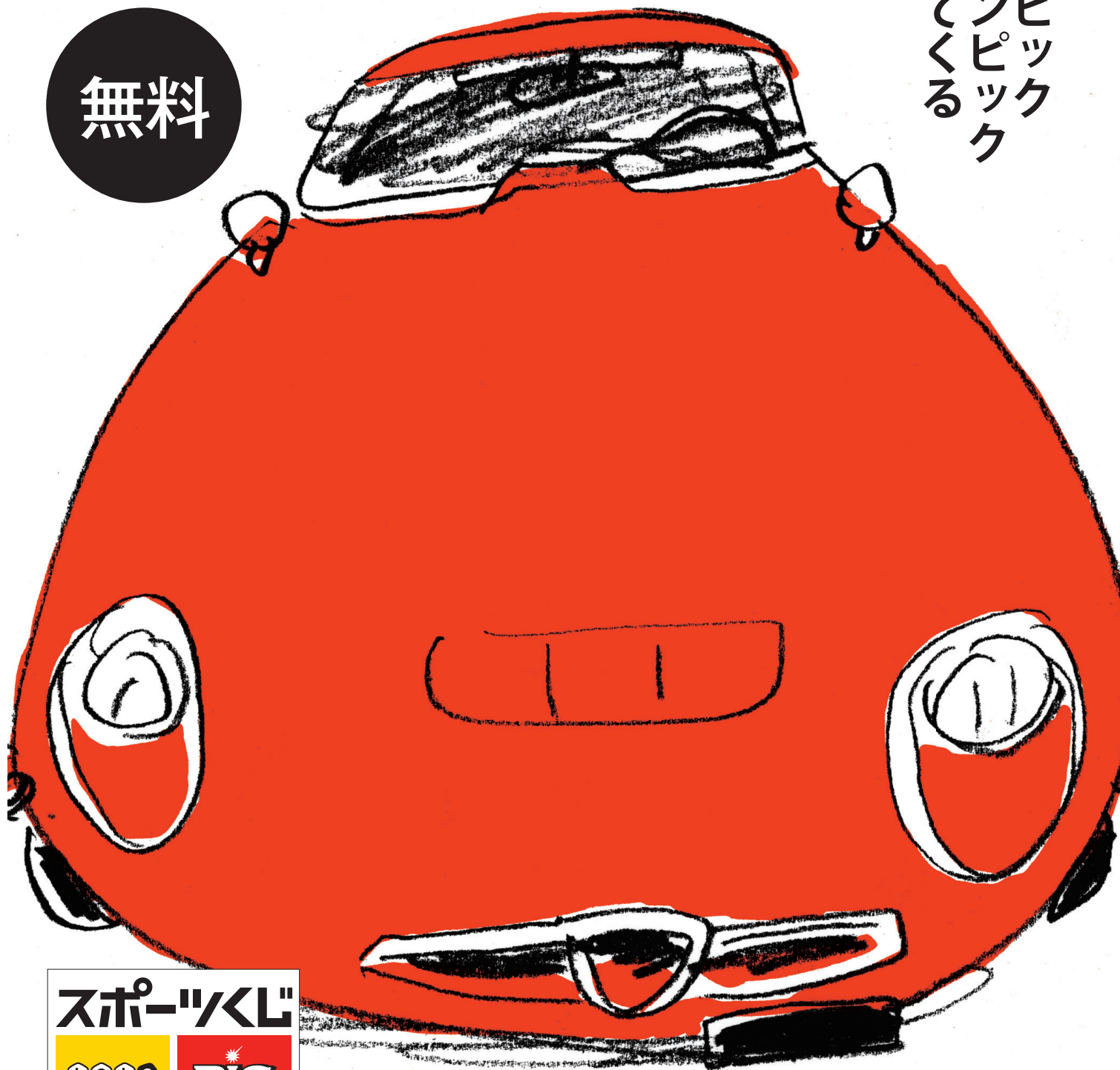
スポーツ ゴジラ®

第 46 号

特集

オリンピック
パラリンピック
がやってくる

無料



スポーツくじ

TOYO

BIG

スポーツ振興くじ助成事業



スポーツゴジラ®

〔第46号〕

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が
商標使用の許諾を受け、スポーツネット
ワークジャパンが発行しています。

2	第46号を発刊するにあたり	長田 渚左
■特集■		
	オリンピック・パラリンピック がやってくる	
4	オリパラ一体で東京から未来像を示す転換期に —— 伝統と革新、五輪は「クール」か「オワコン」か	田村 崇仁
11	スポーツと遺伝子 —— 福 典之	取材 川本 凜太郎
19	スポーツの男女差を考える	波多野 圭吾
27	モスクワ署名 お礼と報告	
28	第120回 スポーツを語り合う会	
30	相撲界は元より国際化していた	竹園 隆浩
36	第7回 スポーツ・セカンドキャリア・フォーラム 松 修康×小野 仁×岸川 登俊	司会 長田 渚左
47	夢劇場『馬』No.19「涼しい顔で…」	長田 渚左
48	バックナンバーのご案内	

【表紙イラスト】南 伸坊

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

第46号を発刊するにあたり

編集長 長田 渚左



いよいよ東京オリンピック・パラリンピックまで5カ月を切った。

2度目の東京大会は、「ダイバーシティ」つまり「多様性」の時代を象徴する大会になると言われている。その「多様性」は大きく分けて二つある。

一つは実施競技だ。スケートボードやサーフィンなど若者たちに支持される「アーバン（都市型）スポーツ」が初めて採用された。もともと文化や社会が反映されるスポーツは、時代とともに変化を遂げてきた。強さや速さよりも、自由な発想や独創性が高く評価される新競技は、オリンピックに新しい価値観を吹き込みそうだ。これまで日本は柔道や剣道などの武道に代表される、厳しい指導を耐え忍んで成就するといったイメージを、スポーツに重ねる傾

向が強かった。しかし、アーバンスポーツは精神論や上下関係とは一線を画す。切磋琢磨して頂点を目指すことに変わりはないが、頂きへの目指し方、表現方法はまるで異なり、「楽しむ」というスポーツ本来の持つ魅力を感じさせてくれる。

二つ目は選手の多様性だ。海外にルーツを持つ日本人選手が目立って増えてきた。世界トップレベルの選手も多く、国民の期待も高い。昨年のラグビーW杯も、海外生まれの日本選手たちが活躍した。開幕前には「日本代表とは言っても……」と違和感を口にしていた人も一部いたが、日の丸を背負ってワンチームで勝ち進む日本代表に日本中が熱狂した。スポーツには人種や国境を超えて人々を一つにする力がある。本来、オリンピックも国ではなく、個人が競い合う大会で、もとより多様性の祭典だ。そのスポーツの本質が東京大会でより鮮明に見えるのだと思う。競技も選手も個性が際立つ大会であることを願って46号を編集しました。お楽しみください。

ご協賛およびご協力企業・団体



人と社会を支える力



立ちどまらない保険。



三井住友海上

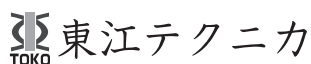


公益財団法人
住友生命健康財団



株式会社東美物流

日本ハンドボールリーグ機構



(順不同)

パラリンピックがやってくる

オリパラ一体で東京から未来像を示す転換期に

——伝統と革新、五輪は「クール」か「オワコン」か

田村 崇仁



田村 崇仁（たむら・たかひと）共同通信社運動部デスク。群馬県出身。早稲田大卒。1996年共同通信入社、2002年W杯までサッカー担当。プロ野球、日本オリンピック委員会（JOC）担当を経て、13年からロンドン支局駐在。現在は東京五輪・パラリンピックを担当する。柔道女子代表の暴力・パワーハラスメント問題取材班（代表）で新聞協会賞受賞。

メダル至上主義と無縁のスーパー小学生

「自由でクール（格好いい）！」

英国人の父と日本人の母を持ち、宮崎県で生まれ育った11歳のスーパー小学生、スカイ・ブラウンは澄んだ瞳を輝かせてスケートボードの魅力をそう表現した。

「東京五輪は特別よ。勝ち負けじゃなくて、超クールな技を見て、みんなが『私もできるかも』って思ってくれたら最高ね」

昨年7月下旬、東京都内で話を聞く機会に恵まれた。愛くるしい笑顔と競技への情熱もさることながら、固定観念を覆す「新しいタイプの選手像」が最も強く印象に残った。

7歳からスポーツ用品メーカー、ナイキをはじめ複数の大手企業がスポンサーにつき、サーフィンでも五輪を視野に入れるプロアスリート。ダンスでも人気番組で優勝するマルチな才能は10代の少女の憧

れだ。スカイの日本名、澄海^{すかい}の通り、世界各国を飛び回り、カンボジアやパキスタンなどにある貧困地域に足を運んだり、自身がデザインしたスケートボードの売上金の一部を寄付したり、チャリティ活動にも積極的に取り組む。写真共有アプリ「インスタグラム」のフォロワーは45万人を超える。

東京五輪で初採用されるスケートボードは年齢制限がなく、高難度の技を競うパーク女子で世界ランキング3位の有望選手でもある。東京五輪を目指すために父の国籍である英国代表か、生まれ育った日本代表のどちらを選ぶか——。当初、父のストウーさんは「五輪はまだ早い」と出場に反対だったが、人生を左右する大きな決断で背中を押したのは「メダルを意識せず、自然体で楽しもう」と柔軟にアプローチしてきた英国オリンピックピック委員会（BOA）の姿勢だった。代表に選ばれれば、英国の夏季大会最年少出場を果たすことになる。

世界中の心をつかんだ五輪のヒーロー、陸上男子

短距離のウサイン・ボルト（ジャマイカ）が引退した今、東京の顔は誰なのか。新しい時代の五輪のシンボルは、メダル至上主義とは無縁で「スポーツを世界一クールに楽しむこと」がモットーと言う、ブラウンのような選手かもしれない。

「都市型スポーツ」の新しい風

近年の五輪は「カネのなる木」に群がる商業主義や肥大化による開催都市のコスト負担で招致熱が冷え込み、現代風に言えば「オワコン」とも揶揄される。もはや時代に飽きられ、歓迎されないことを意味する「終わったコンテンツ」の略だが、東京大会に求められるのは新世代の旗手、ブラウンに象徴される「新しい五輪像」だろう。

半世紀ぶりに戻ってくる2度目の東京五輪は史上最多33競技、339種目を実施。206カ国・地域から約1万1000人が参加見込みで、1964年東京五輪と比較すると規模は2倍近い。その中でも

五輪初の試みとなる「開催都市枠」の5競技18種目で3大会ぶりに復帰する野球・ソフトボールや沖縄発祥の空手に加え、新競技の「都市型（アーバン）スポーツ」と呼ばれるスケートボードやスポーツクライミングは多様な顔を持つ五輪に新たな風を吹き込んでくれる期待感が漂う。

旧態依然としたスポーツ界で暴力やパワハラなど不祥事が相次ぐ中、音楽やファッションとも融合し、根性主義の「スポ根」とは一線を画す自由な文化。手軽に屋外や路上で立ち見客も含めて楽しめる伝統競技とは異なる観戦スタイルも魅力だ。若者の五輪離れに危機感を持つ国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長は「生き残り戦略」として「伝統と革新の融合が東京五輪のキーワード」と繰り返し続けた。7年前の就任時から既存28競技にこだわらず推進した改革は「五輪の転換期」と位置付ける東京で真価が問われる。

カントリーロードと五輪休戦決議

昨年秋、ラグビーのワールドカップ（W杯）は日本が目標の8強入りを達成し、多国籍チームが結束をうたうスローガン「ONE TEAM（ワンチーム）」で日本列島を熱狂させた。超満員の東京スタジアムで国籍を超えて観客が誰彼なく肩を組み、フオークソングの名曲「カントリーロード」の大合唱に包まれた一体感と高揚感は忘れようもない。ラグビーを心の底から楽しむ雰囲気があるにいった。

東京五輪はどうか。陸上男子短距離のサニブラウン・ハキーム（米フロリダ大）や女子テニスの大坂なおみ（日清食品）、米プロバスケットボールNB Aでプレーする八村塁（ウイザーズ）ら日本と海外の両方にルーツを持つアスリートの活躍が目覚ましい新時代。ラグビーW杯と同様の「多様性と調和」をテーマにした大会で日本の顔となる彼らは世界基準の身体能力や競技力だけでなく、横並びといわれ

る日本社会の価値観にとらわれない個性と発想力で力強い一歩を示すだろう。

IOCは五輪の「憲法」ともいわれる五輪憲章で「五輪は選手間の競争であり、国家間の競争ではない。オリンピックとはスポーツを通じて平和な社会の実現を目指す理念」と定める。国旗や国歌も国ではなく、選手をたたえるものだが、五輪は事実上、国別対抗戦の色彩が濃いのが現実だ。

実際、日本オリンピック委員会（JOC）は東京五輪での金メダル目標を世界3位、史上最多30個と掲げる。この夏、世界でも有数の五輪好きな日本はメダルを巡る「狂騒曲」を奏でるに違いない。ただ五輪をメダルの有無に一喜一憂するだけのスポーツ大会で終わらせてはもったいない。

「平和の祭典」と呼ばれる五輪の理想は1964年東京五輪の閉会式。各国選手が入り乱れ、笑顔で肩車や写真撮影をしながら、入場行進した自由で開放的なフィナーレは今も語り継がれる。昨年12月の国

連総会（193カ国）で東京大会期間中の武力紛争を控えるよう休戦を求める決議は186カ国が共同提案して採択され、平昌大会の157から大幅に増えた。

国ぐるみのドーピング問題を抱えるロシア、北朝鮮や中東情勢の先行きが不透明な中、政治や国籍、宗教、性別、勝者と敗者の壁を越えて「世界は一つ」を実感できる瞬間を再び示せるか。スポーツを通じて平和構築のメッセージを発信するのは五輪の使命でもある。

壁を越えてモスクワ「幻の代表」も招待

「半世紀前のレガシー（遺産）を生かし、次世代のモデルになる大会を実現してほしい」。東京五輪の準備を監督するIOCのコーツ調整委員長は口癖のように訴える。東京から「次世代モデル」となる大会の未来像を示す上で、個人的に楽しみにしたいのは「オリパラ一体」の取り組みだ。

2016年リオデジャネイロ大会後に五輪とパラリンピックのメダリストによる初の合同パレードが行われ、東京大会で日本選手団が開会式で着用する公式服装は「共生」をテーマに初めて五輪とパラで同じデザインになった。五輪と同様にパラの公式映画も初めて製作される計画だ。

狂言師で演出家の野村萬斎氏が総合統括を務める五輪とパラの開閉会式はその象徴で「起承転結」がある一連の4部作構成となるが、世界を驚かせる仕掛けが何かあるかもしれない。大会組織委員会の森喜朗会長はオリパラ一体の「サプライズ演出」をほのめかす。

時代を超え、東西冷戦下に日本がボイコットした1980年モスクワ五輪の「幻の代表」が東京五輪の試合や日本選手団の結団式に招待される計画も出ている。こうしたさまざまな壁を越える動きはスポーツで人々の意識や社会を変える突破口になるかもしれない。

今大会はコスト削減で当初のコンパクト計画が変更され、東京都外でも1道8県で実施される広域開催。酷暑を懸念したIOCの急転直下の判断でマラソンと競歩の札幌移転も決まり、過去大会のように会場が集中する「五輪公園」もない。

今後は国・地域をまたぐ共催も認めるため、一つ屋根の下の選手村で異文化交流を育む五輪の理念が揺らぐ中、祝祭空間をどこに生み出すか創意工夫を問われる大会にもなる。

パラは意識の変化がレガシーに

障害者スポーツの祭典、パラリンピックは多様な人々がさまざまな壁を越えて歩み寄る「共生社会」の実現へ五輪以上に大きなインパクトを残すだろう。

東京は世界で初めて2度目のパラリンピックを開催する都市。7年前、IOC総会（ブエノスアイレス）で最終プレゼンに登壇した谷（旧姓佐藤）真海さんは骨肉腫による右脚切断の絶望、東日本大震災

で故郷の宮城県気仙沼市が被災した経験を踏まえ「スポーツの力」を訴えた。「私はスポーツに救われた」「スポーツが人生で大切な価値を教えてくれた」という切実なメッセージは障害や国籍の壁を乗り越えて一つになる「パラの価値」とも重なる。

国際パラリンピック委員会（IPC）のパーソンズ会長は東京大会の最も重要なレガシー（遺産）として「人々の意識の変化」を挙げる。ホテルや公共交通機関のバリアフリー化はもちろん大事だが、それ以上に日本社会の変革につながる「心のバリアフリー」が大切と位置付ける。国や企業の支援が拡大し、学校でも「パラ教育」が普及する中、目標である全会場満員の「フルスタジアム」が実現すればこうした機運への一歩になりそうだ。

原点回帰からスポーツで健康社会の実現を

昨年春に英国中部のマッチ・ウェンロックを訪ねた。2012年ロンドン大会のマスコット名の由来

にもなった人口約3000の小さな村は1850年に第1回の運動会「ウェンロック・オリンピック大会」を開き、今も脈々と息づく。生みの親は「近代五輪の父」クーベルタン男爵にも多大な影響を与えた外科医のウィリアム・ブルックス。「スポーツと健康」の意義を唱え、労働者の生活改善や学校教育のためにスポーツ振興に力を尽くしたことで知られている。

新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大が猛威を振るう中、近代五輪の「原点」に回帰し、超高齢化社会を迎えた日本で未来像を示せるのは、ハードとソフト両面の「バリアフリー対策」も含めてこの健康分野でもあるだろう。最近はアスリートの疲労感や睡眠の質など体調面もデータ管理できる時代。スポーツと最先端技術の融合は万人の健康管理や健康増進にも活用できるレガシーになる。

東日本大震災からの「復興五輪」の理念を色濃く反映させる聖火リレーは福島からスタートし、メダ

ルは再生金属を活用する。表彰台は環境に配慮してプラスチックの廃材を再利用してつくる。1964年東京五輪は新幹線や高速道路のような高度成長を支えた有形のレガシーを残したが、今回大切なのは人々の心に残る無形のレガシーだ。

大会成功の鍵を握る輸送や暑さ対策が懸念される中、五輪招致を巡る不正疑惑の霧も晴れていない。課題は山積みだが、後利用方針がまだ定まらない新たな聖地、国立競技場も完成し、7月24日の開幕を待たばかりだ。「平和の祭典」の理念を継承しつつ、ブラウンのような若者の心に響かせる「クールな五輪」を実現できるか――。東京に世界の視線が集まる熱い夏がやってくる。

◎2020年東京五輪で実施されるアーバンスポーツ

- ・スケートボード
- ・自転車BMXフリースタイル・パーク
- ・スポーツクライミング
- ・バスケットボール3人制
- ・サーフィン

パオリンピック
ピック
がやってくる

スポーツと遺伝子

取材 川本凜太郎

福典之

今年の東京オリンピックは、テニスの大坂なおみ、陸上短距離のサニブラウン・ハキーム、バスケットボールの八村塁ら、多数の競技で日本と海外の両方にルーツを持つ日本人アスリートの活躍が期待されている。すでに世界では海外にもルーツを持つトップアスリートは圧倒的多数で、近年はスポーツと遺伝の研究も進歩しているという。まさに多様性の祭典とも言えるオリンピックを控えて、スポーツ遺伝学の研究者でもある順天堂大学大学院の福典之准教授に、スポーツと遺伝子の関係性について話を聞いた。

福典之（ふく・のりゆき）1973年、埼玉県出身。98年に国際武道大学大学院武道・スポーツ研究科修了。02年に名古屋大学大学院医学研究科で博士号を取得。国立健康・栄養研究所健康増進研究部特別研究員、東京健康長寿医療センター健康長寿ゲノム探索研究員を経て、14年に順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の准教授就任。専門はスポーツ遺伝学、スポーツ生理・生化学で、主に運動能力やスポーツ傷害を規定する遺伝要因の解明に取り組んでいる。

——東京オリンピックを控えて、海外にもルーツを持つトップアスリートの活躍が注目されています。テニスの大坂なおみ、陸上のサニブラウン・ハキーム、バスケットボールの八村塁……。日本のスポーツ界も多様性の時代を迎えたと言われています。

福 そんなふうに考えるのは世界でも日本人くらいでしょう。カナダの陸上のリレー代表選手は4人もアフリカ系なんてこともありますし、陸上の長距離で12、16年と五輪金メダルを独占した英国代表のモハメド・ファラー選手はソマリア出身です。欧州なんてハーフや海外ルーツなんて当たり前なんです。だからそこは日本の島国特有の考え方だと思っています。

——確かに昨年のラグビーワールドカップで、日本代表には海外にルーツを持つ選手が多く、開幕前は抵抗感を示す人も多かったのですが、日本が勝ち進むにつれて、選手のルーツのことを口にする人は随分と少なくなりました。

福 欧州でナショナルティを聞くことはタブー視されています。私も親しくなったスウェーデンの友人に聞いたことがあるのですが『難しい質問だね』と言われて、『父方の祖父はあそこで、母方の祖母はあそこ……』とすごく複雑で、彼自身が悩み始めたのです。だから私自身もルーツなんてどちらでもよくて、サニブラウン選手も桐生選手も同じ日本人だから応援するという感じです。

——一方で両親のどちらかが海外にルーツを持つ日本の選手たちの運動能力は、際立っているようにも感じます。育った環境やトレーニング方法だけではなく、遺伝的な優位性もあるのでしょうか。

福 ありますね。もちろん日ごろの練習や本人の努力などの環境も大きいですが、混血することで優位性が出てくることは、約35万人を対象にした研究データでも証明されています。遺伝的に離れた人同士から生まれた子どもの方が、運動能力だけではなく、知能や肺活量などあらゆる分野で高い数値を示して

いました。

ゴリラと人間の握力の違い

——具体的にどのような事例や研究データがあるのですか。

福 例えば陸上短距離でウサイン・ボルト選手らがメダルを量産しているジャマイカ人もヨーロッパ系との混血が多数です。アフリカのナイジェリア人やガーナ人に比べて、ジャマイカ人やアフリカ系の米国人の方が、短距離でいい成績を残しているのは、環境やトレーニング方法も影響してはいますが、遺伝的な側面も無視できません。また、私が実際に英国の研究者と一緒に解析したデータでは、米国のトップスプリンターのミトコンドリアDNA（遺伝を司る物質）を調べたら、成績の上位の選手たちは非アフリカ系とアフリカ系の混血でした。

——ある研究では運動能力は66%が遺伝的要因で、34%が環境要因というデータもありますか。

福 あくまで研究データの一つです。正確なデータ

は分かりませんが、筋力など他の要素では半々くらいだろうと思います。人の体は遺伝情報をもとにできているので、遺伝的な要因で決まるのは当然のことです。例えばゴリラの握力は500kgくらいありますが、人間は50kgくらいです。この違いは環境ではないですね。遺伝が関与しているわけです。その差が人間の小さなバリエーションの中で、たまたま筋力のある人、ない人ということになります。

——運動能力の半分が遺伝で決まってしまうという分析にはちよつと抵抗を感じますが……。

福 世間的には遺伝的要因を受け入れたくないという人は多くいますが、生命がすべてDNAをもとにできている以上、半分くらい支配されているのは当然といえば当然です。

——陸上のトラック競技ではアフリカ系の選手が圧倒的に強いのですが、同じアフリカ系でもケニアやエチオピアなど東アフリカは長距離が速くて、ジ

ヤマйкаや米国のアフリカ系選手のルーツでもある西アフリカは短距離が速い。明らかに特性が違います。これも遺伝子が関係しているのですか。

福 DNAを調べると東と西では配列が全然違います。アフリカ大陸は中央に深い渓谷などがあるため、人類が誕生したと言われる東アフリカから西に移動するには、最南端の南アフリカのあたりまで迂回^{うかい}するしかありませんでした。だから東から西にたどり着くまでには長い年月がかかったのです。その間にDNAに多様性が生じたのだと思います。

多様性と適性

——ケニアやエチオピアは高地だから長距離が速くなったという説もありますが。

福 確かにケニアは高地だから持久力がついたという環境要因もあると思いますが、それは高地の環境に適応しやすい遺伝的要因があったからとも考えられます。霊長類だって体操の得意そうなチンパンジ

ーから柔道の強そうなゴリラまで枝分かれしていますよね。同じように人は人で多様性が出てきたということだと思います。

——人の多様性の中で、日本人はスポーツの視点からどんな特性があるのですか。オリンピックの歴史を見ると昔からレスリングや柔道、水泳を得意としています。

福 まずヨーロッパやアフリカのホモサピエンス（現生人類）は、筋力が強かった絶滅したネアンデルタール人と一部混血していることが分析データで証明されています。もしかすると欧米人がアジア人より筋力が強いのはその影響があるかもしれません。アジア人はネアンデルタール人とは別種のデニソワ人と混血していて、チベットの高地（低酸素）適応に向いていたという報告もあり、このようなヒトでは持久力が高いのかもしれませんが。また、氷河期時代に日本人は顔や体の凹凸^{おうとつ}をなくして手足を短くすることで熱放散を防いだと言われています。それで

日本人は重心が低い方が優位になるレスリングや柔道が強いのだと思います。水泳も水に沈む足は、短い方が優位ですよね。一方、ヨーロッパ人は体を大きくして、表面積当たりの体積を増やすことで熱放散を防いだと言われています。

瞬発系か、持久系か？

——これまで日本のアスリートが活躍すると、育った環境やトレーニング方法、食事など環境要因ばかりにスポットが当てられてきましたが、遺伝的要因も大きいということがよく理解できました。具体的に先生は今、どんな研究をされているのですか？

福 オリンピックに出場するような選手の遺伝的な特徴を検討しています。

この特徴を解明できれば、適正種目の選択やトレーニング効果の最大化が図れる可能性があります。実際に本人や親が希望すれば、遺伝子テストを使って子どもの競技選択が可能です。遺伝子で分かるの

はスポーツに向いている向いていないではなくて、例えば瞬発系のスポーツに向いている、持久系のスポーツに向いているとかです。ただし、初めてスポーツ遺伝子の論文が出たのが30年ほど前ですから比較的新しい研究といえます。そのため現在の遺伝子テストは予測率がそれほど高くないということが問題です。様々な測定項目と併せて総合的に判断することが重要です。

——『誰でも足は速くなる』という本を読んだことがあります。足が遅い子どもが努力してとても速くなった例もありますが。

福 一般的にはトレーニングをすれば誰でも速くなるし、筋トレをすれば強くなります。

でもオリンピックで金メダルを目指すというレベルが目標であれば、遺伝的に向かない競技を選ぶよりは向く競技を選んだ方が成功への近道かと思います。トップアスリートになるには、環境や努力に加えて筋力やケガに対する耐性などの遺伝的要因とい

ったものも全部含めて、ポーカーのロイヤルストレートフラッシュではないですが、すべてを持つ人が世界のトップに上り詰めていくのだと思います。

——例えば陸上の男子100mで9秒台を出してメダルを手にする選手は、遺伝的要因はどのくらいあるのですか。

福 DNAの影響は半分くらいと考えられています。残る半分が育った環境や指導者との出会い、親御さんが熱心だった、栄養をよく摂ったといったことです。ふつうの選手が環境要因や努力だけで9秒台を出せるのであれば、もつと多くの選手が出しているはずですよ。

競技力向上と予防策

——遺伝的な要因は運動能力のほかにも何かありますか。

福 筋線維組成や貧血、ケガといったアスリートの運動能力に大きく関わるものです。肉離れを起こし

ている人と、いない人、疲労骨折を起こしている人と、いない人などで遺伝子を比較して、起こしていない人はどんな遺伝子を持っているのかが分かってきました。ただ人によつては筋肉は強いタイプだけど、骨は弱いという人もいます。それが分かるとトレーナーも事前に予防策を立てやすいと思うので、そういう面でも遺伝子のタイプが分かると競技力の向上に役立つと考えられます。

——そうすると、これからはトレーニング科学や栄養学と同じように遺伝子学的重要性が高まってくるということですか。

福 そう思います。これだけ世界で情報が素早く共有されると、トレーニングや栄養などの環境要因は格差がなくなつて均一化されてきます。そうすると遺伝的要因が高い人がよりいい成績を残すことになると考えられます。もちろん環境要因が重要なことには変わりはありません。ヨーロッパで開発されたインターバルトレーニングを最初に取り入れた選手

はオリンピックで金メダルを取りました。今の時代
にそんな画期的なトレーニング法が開発されたとす
れば、一時的に突出することができるとでしょう。で
も他が導入すれば再びアドバンテージがなくなつて
しまいます。

知る自由、知りたくない自由

——とは言つても子どもの頃から自分の適性スポ
ーツが遺伝子によつて決められるというのはとても
寂しい気がします。自分のやりたいスポーツと、遺
伝子テストで適性とされたスポーツが違つてくるこ
とも十分考えられますが。

福 病気の遺伝子検査があります。病気になつたり
する確率が高いとかを知るのが怖い人は調べません
よね。でも自分にどんな病気のリスクがあるかを知
りたい人は調べます。それとあまり変わらないと考
えます。知りたい人は調べるし、知りたくない人は
調べない。それは本人や親御さんの自由ということ

です。

——スポーツ界には子どもの頃はいろんな競技を
経験させた方が、将来的にも伸びるという考え方も
根強くありますが。

福 子どもの頃にいろんなスポーツを経験して、そ
の中から得意な競技を選ぶというのは、その背景に
は無意識に遺伝的要因から選択している可能性があ
ります。つまり、いろんな競技をやる過程で、自分
の適性競技を見つけているだけなのかもしれません。
それを最初から見つけられるのであれば、最初から
適正競技が分かればそれ一本でやった方がいい可能
性があるとは思いませんか？ サッカーや野球など
技術系のスポーツは、神経系の発達の速い小さい頃
からやらないとなかなか大成せず、青年期からこの
ような技術系のスポーツを始めて大成した例をあま
り見かけません。これらについては今後検討する余
地があります。

実体験と適性

——ところで福先生ご自身は、どうしてスポーツ遺伝子の研究に興味を持たれたのですか。

福 自分の陸上競技（長距離）の体験が今の研究につながっています。私は子どもの頃から長距離走が他の子どもに比べて速くて、小学校6年間と中学3年間はずっと持久走大会で学年トップでした。それで中学の顧問から勧誘されて長距離を始めて、埼玉の飯能高校時代は全国高校駅伝にも出場しました。ふつうの人は長距離走といった低強度の運動でも長い時間続ければ筋肉が肥大しますが、長距離に適した選手は20 km、30 kmを毎日走っても足が細いままなんです。もちろん走り方の違いはあるものの、速筋は肥大しますが、遅筋線維が多いとあまり肥大しません。ところが部活仲間と同じトレーニングをしているのに、私のふくらはぎだけが肥大していきました。また長距離選手の場合、ベンチプレスで自分の

体重の重量を挙げられないのがふつうですが、私は体重の1・5倍の80 kgを挙げていました。故障も多かった。だから自分は長距離選手よりも、パワー系の競技に向いていたのではないかと思うに至りました。でもコーチに相談できるような時代ではなかった。そんな実体験を通じて、適性スポーツを選ぶことの重要性を感じたのがきっかけですね。

縄文系と弥生系

——子どもの頃から足が速かったということは、ご両親も速かったのですか。

福 それが両親ともスポーツをやっていないので分かりません。例えば糖尿病の研究は家族歴がしっかり出ますから、糖尿病の家系がすべて分かれます。つまり糖尿病になった人の家系の中で、なった人とならなかった人のゲノムを比べることで原因遺伝子を探ることができます。ところがスポーツ選手の場合はスポーツをしないと一流になるかどうか分から

ないので、家系の研究がとても難しいのです。

——最後に遺伝子を研究している立場から、今年の東京オリンピックは特にどんなところに注目して見るつもりですか。

福 私は日本人なので、活躍する日本選手がどんな遺伝的なバックグラウンドを持っているのか。出身はどこなのかなどはやはり注目しています。海外にルーツを持たない日本選手でも、耳たぶを見比べて縄文系なのか弥生系なのかといった見方をしています。縄文系の方が筋肉量が多い可能性があり、瞬発系に多かったりしますから、スプリンターに向いているなあとか考えたり（笑い）。やっぱり仕事柄そこは興味を持って見るつもりです。



オリンピック
ピック
がやってくる

スポーツの男女差を考える

波多野 圭吾



波多野 圭吾 (はたの・けいご) 1983 (昭58) 年、北海道旭川市出身。2016年、国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士課程単位取得退学。国士舘大学体育学部附属体育研究所特別研究員を経て、現在神奈川大学人間科学部助手。スポーツ社会学の観点から、アスリートの社会貢献活動やキャリア、ジェンダーなどを研究する。共著書に『よくわかるスポーツとジェンダー』(ミネルヴァ書房)、『データでみるスポーツとジェンダー』(八千代出版) など。

オリンピックの全出場選手に占める女性の割合は年々増加傾向にあり、2020年の東京大会は過去最高となる48・8%となる見通しです。日本選手団においても近年は50%前後で推移しており、2012年のロンドン大会(53・2%)や2018年の平昌冬季大会(58・1%)のように、女性選手が半数以上を占めることも珍しくありません。2012年のロンドン大会でボクシングが女子種目に加えられてからは、女性が参加可能な競技の割合も100%が維持されています。

近年のこうした状況に鑑みれば、オリンピックの競技における男女平等は実現しているといえるでしょう。また、オリンピックが世界中のスポーツイベントに大きな影響を与えていることも考えれば、女性選手の活躍を後押しする環境が整いつつあるといえるかもしれません。

しかし、「競技」という大会運営上の制度で男女平等が実現したといっても、それが人間の身体得多

様性を保証するものとは限りません。例えば、オリンピックのような競技レベルの高い国際的なスポーツイベントでは、女性選手を対象にした性別確認検査が導入されています。

フライバシーと批判

女性によるスポーツが盛んになったのは1930年頃ですが、それから間もなくして、男性選手が女性に扮して試合に出場するケースが散見されるようになりました。体格や筋力の面で男女差があることを悪用し、女子競技で勝利することで富や名声を得ようと画策した男性選手がいたのです。また、過去の大会で上位に入った選手が、後に女性ではなかったと判明したこともありました。

性別確認検査は1948年にイギリス女子陸上競技連盟が初めて行ったとされています。多くの競技団体がこれに続いて性別確認検査を制度化した背景には、そうした選手たちを競技の場から排除し、女

子競技における公正や結果の平等を確保しようという狙いがありました。

1966年のヨーロッパ陸上競技選手権大会では、医師が外部生殖器の形状を検査する「視認検査」が行われました。しかし、この検査方法は女性選手が医師の前を裸で歩かなければならず、屈辱的でプライバシーの侵害であると多くの批判を招きました。

IOC（国際オリンピック委員会）は女性選手のプライバシーに配慮して、1968年から口腔細胞を採取して女性の典型であるXX染色体を有しているかを確認する「染色体検査」を導入しました。ところが、この検査方法では女性でありながらXY染色体を有する性分化疾患（DSD）の症例等に対応できず、本人も知らなかった性染色体の情報が当該選手の失格処分によって公にされるという事態を招きました。専門医によれば、性分化疾患の選手が特異な競技力を有することはなく、染色体検査がこれらの選手を競技の場から不当に排除しているとの批

判が寄せられました。

課題と保護

IOCはより精度の高い検査を行うべく、1991年に口腔細胞や毛根の遺伝子情報からY染色体の有無を確認する「ポリメラーゼ連鎖反応（PCR）法」という検査を導入しました。しかし、いくら検査の精度が高まったとはいえ、PCR法が性染色体の型を判別する検査であることに変わりはなく、結果的に染色体検査と同じ課題を抱えることになりました。

こうした医学検査上の課題が表出するとともに、女性競技者の人権保護を訴える動きが広まったことも影響し、IOCは2000年のシドニー大会以降、それまですべての女性選手に課していた性別確認検査を廃止し、性別に疑いが生じた場合のみ検査を行うこととしました。

2009年の世界陸上ベルリン大会では、南アフ

リカのキャスター・セメンヤ選手が女子800mで圧倒的な走りで優勝したことから性別に疑義を呈され、性別確認検査を受けました。IAAF（国際陸上競技連盟）は1991年にすべての女性選手への性別確認検査を廃止しましたが、オリンピックと同様に、疑義が生じた場合は個別に対応することとされていたのです。

本来、性別確認検査の結果が公開されることはありません。しかし、セメンヤ選手の結果は外部に漏れ、彼女の身体は「男・女」という典型的な性別の枠組には収まらない、性分化疾患であることが知られることとなりました。

高い・低い

特に問題視されたのは、セメンヤ選手の体内で生成されるテストステロン（男性ホルモンの一種）の多さです。ある報道によれば彼女のテストステロン値は一般的な女性の3倍近くあり、それが競技上の

アドバンテージにつながっているとされました。

IAAFはセメンヤ選手の処分を検討したものの、それが人為的なものではなく先天的なものだったことから、彼女のメダルを剥奪することはありませんでした。しかしこの一件以降、IAAFはテストステロン値が先天的に高い女性選手を競技の場から排除しようとする動きを強めています。テストステロン値が高いことが明らかになったセメンヤ選手には、女子競技の公平性という観点から投薬によって数値を下げるよう求めました。セメンヤ選手はこの求めに応じたものの、投薬の影響からか、2012年のロンドン大会では自己ベストから程遠い走りしかできませんでした。

また、IAAFは2011年に性別に関する疑義が生じた際にテストステロンの数値を確認する「高アンドロゲン症検査」を導入しました。それまで行われていた染色体に関する検査が「男・女」という生物学的な性別に区分するためのものであるのに対

し、高アンドロゲン症検査は生物学的性別を決定づけるものではありません。性染色体の形状に関わらず、血中のテストステロン値が一般的な男子選手の下限(10nmol/L)を上回っている場合は、テストステロンを抑えるための投薬治療か外科的手術を受けないと、女子の試合に出場することができません。

外部生殖器や性染色体において典型的な男女の特徴を持たない人がいるのと同様に、性ホルモンの量もまた個人差が大きく、テストステロン値が高い女性や低い男性が存在しています。つまり、この問題はセメンや選手個人に限ったものではなく、多くの女性選手に関わる問題なのです。

検査と投薬

2013年には、インドの陸上女子短距離のデュティ・チャンド選手が、IAAFのテストステロン値の基準を超えていたとして、インド陸上競技連盟

から出場資格停止処分を受けました。翌年、チャンド選手は処分の取消を求めてCAS(スポーツ仲裁裁判所)に提訴します。CASは、テストステロン値と競技力の相関性が科学的に実証されていないことから、チャンド選手の競技復帰を認め、IAAFに科学的妥当性が証明されるまで高アンドロゲン症検査の運用を停止するよう命じました。

この判決を受けて、IAAFは2018年に新規則「性分化疾患の選手に関する規定(DSD規定)」を発表し、400m〜1600m(障害走を含む)に出場する女性選手の内、XY染色体を持つ選手はテストステロンが基準値(5nmol/L)を超えてはならないとしました。基準値を上回っている場合は、投薬によって6ヵ月以上テストステロン値を下げていれば競技に参加することができます。

しかし、過去に性別確認検査を受け投薬治療の経験もあるセメンや選手は、女性選手の人権保護の観点から投薬によってテストステロン値を抑えること

を拒否し、DSD規定は無効であるとCASに提訴しました。南アフリカ政府や国連人権委員会などがセメンヤの訴えを支持する一方で、CASはDSD規定が差別的であることを認めながらも、女子競技における選手間の公平な競争を維持するためには必要かつ合理的な手段であるとして、2019年4月にセメンヤ選手の訴えを退ける判決を下しています。

フェアと公正

セメンヤ選手は、CASの本部があるスイスの連邦最高裁判所にも、DSD規定の停止を求めて提訴しました。しかし、同所もIAAFの規定は妥当であるとの判決を下しています。結局、投薬治療を拒否したセメンヤ選手は2019年9月の世界陸上を欠場しました。本稿執筆時（2020年2月）現在、セメンヤ選手が今夏の東京大会に出場するかどうかはつきりとせず、性別確認検査の是非を巡る議論は今もなお続いています。

トップアスリートの多くは一般的な競技者よりも筋量が多く、身長や手足の長さなど体格的なアドバンテージを有していることがほとんどです。そうした差は問題視されることがないにも関わらず、先天的な染色体の型や性ホルモンの量が問題にされるのはなぜなのでしょう。

また、健康でありながら投薬によって自らの先天的な能力を抑えるのは、投薬で能力向上を図るドーピングと逆の構図にあるといえます。こうした中で争われる競技は、本当にフェアと呼べるものなのでしょうか。女子競技の公正を確保するために導入された性別確認検査が、かえって不平等な状態を招くという、皮肉な結果をもたらしています。

「男・女」という性別を決定するのは生殖器なのか、染色体なのか、それとも性ホルモンなのか。私たちは人間の身体は実に多様で、最先端の科学技術をもつてしても未だその結論は出ていません。

典型的な男女の枠組に収まらないのは、性分化疾

患の選手だけではありません。身体的な性別と自分が認識する性別が一致しないトランスジェンダーや、インド、米領サモアのように、独自の文化の中で男女以外に「第三の性」を認めている国もあります。こうした人間の身体の多様性を踏まえて考えてみると、スポーツにおける男女の定義はもちろん、男女を二分して競技を行うことが本当に妥当なのか、再考する時が来たといえるのかもしれませんが。

そうした意味で、今後のスポーツ界には選手の多様性と人権に配慮しながら競技上の公平性や面白さを確保する、柔軟な姿勢が求められることになりそうです。

【参考資料】

- 1) 内閣府男女共同参画局 「スポーツにおける女性の活躍」(男女共同参画白書 平成30年度版)
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/zentai/html/honpen/b1_s00_01.html
- 2) 飯田貴子ら編著 『よくわかるスポーツとジェンダー』 ミネルヴァ書房 2018年 pp.150-151

- 3) 高橋徹編著 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 みらい 2018年 pp.128-130
- 4) 日本スポーツとジェンダー学会編 『データでみるスポーツとジェンダー』 八千代出版 2016年 pp.152-154
- 5) Media Release Semenya ASA IAAF closing - Court of Arbitration for Sport
https://www.tas-cas.org/fileadmin/user_upload/Media_Release_Semenya_ASA_IAAF_closing.pdf





お礼とご報告

私たちは1980年モスクワオリンピックの幻の日本代表を、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーや開会式等セレモニーのメンバーに推薦する署名活動を行ってきました。

皆様からお預かりした署名は、昨年12月21日に都内で行われた『モスクワオリンピック日本代表選手集いの会』で、日本オリンピック委員会山下泰裕会長へ、スポーツネットワークジャパン理事長・長田渚左、日本スポーツ学会事務局長・太田章よりお渡しいたしましたのでご報告申し上げます。その後、聖火リレー走者に幻の日本代表の起用が日本各地で発表され、数年前からシンポジウム開催や署名活動を展開してきた私たちにとっても大きな喜びとなりました。皆様に御礼を申し上げます。今後ともご支援をいただければ幸いです。

日本スポーツ学会、
NPO法人スポーツネットワークジャパン 同

語り合う会

スポーツネットワークジャパン

【第二部】

体操の“美”とは何か？
五輪の体操で8個もの金メダルを獲得した
加藤澤男氏が体操の美の本質について語ります。



加藤 澤男 氏

1946(昭和21)年、新潟県五泉市生まれ。73年、東京教育大学大学院修士課程修了。男子体操選手として、68年メキシコ、72年ミュンヘン、76年モントリオールの五輪3大会で個人総合2連覇を含む8個の金メダルを獲得。筑波大学教授、白鷗大学教授を経て、現在筑波大学名誉教授、白鷗大学名誉教授。日本体操協会評議委員、国際体操連盟名誉委員。主な受賞に2001年国際体操殿堂、04年紫綬褒章、13年国際体操連盟功労賞など。

定員：60名（当日先着順、事前申込は不要です）

お問い合わせ：sports.gakkai@gmail.com（日本スポーツ学会）
03-3323-0893（スポーツネットワークジャパン）

上記連絡先以外へのお問い合わせはご遠慮ください。
不在の場合はご連絡先を留守番電話にお入れください。
その際、ゆっくりとお話いただきますようお願いいたします。
後ほど、こちらからご連絡を差し上げます。

※新型コロナウイルス感染拡大により、中止、延期、あるいは会場変更の可能性もあります。ホームページを事前にチェックしてください。

第120回 スポーツを

主催：日本スポーツ学会、NPO法人

【第一部】

五輪選手団長として迎える大会への期待と想いを世界的な視野を持つテニスプレイヤーとして長く活躍した福井烈氏が語ります。



福井 烈氏

1957(昭和32)年、福岡県北九州市出身。77年、当時史上最年少(20歳)で全日本テニス選手権シングルス優勝。通算7回優勝は歴代最多。78～87年デビスカップ日本代表。選手引退後は指導者として活躍し、92～96年デビスカップ日本代表監督。92年バルセロナ、2000年シドニー五輪日本代表テニスチーム監督。日本テニス協会専務理事、日本オリンピック委員会専務理事ほか役職多数。20年東京五輪では日本選手団団長を務める。

日時：2020年4月4日(土) 14:00～(開場 13:30)

講演会開始前に2020年度総会が15分ほどあります。

日本スポーツ学会会員は、総会よりご参加願います。

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 3階 337会議室

東京都文京区大塚3-29-1

東京メトロ・丸ノ内線茗荷谷駅「出口1」より徒歩5分

参加費：1,000円(日本スポーツ学会会員は無料)

オリンピックがやってくる

相撲界は元より国際化していた

竹園 隆浩



1972年7月の名古屋場所で優勝して賜杯を手にする高見山



竹園 隆浩 (たけその・たかひろ) 1963 (昭38) 年生まれ。鹿児島県奄美市出身。鹿児島実高一明大を経て86年朝日新聞社入社。大学まで柔道部だった経験を生かして主にスポーツ報道に携わる。柔道のほか、大相撲、空手、プロ野球などを取材。

昨年日本で開催されたラグビーのワールドカップ（W杯）では、日本代表が初の8強入りを果たして喝采を浴びた。彼らの中には外国出身者が多く含まれていた。今夏、東京で2度目の開催となる2020年夏季五輪でも、国際結婚から産まれた選手らが「日の丸」を背負って活躍しそうだ。日本にも、スポーツ文化の国際化は根付き始めている。だが、外国人を受け入れる体制は、皆が納得する形で整った競技ばかりではない。今回は、過去に様々な話題を提供してきた「国技」と言われる大相撲の国際化を紐解いてみる。

今の角界は外国勢全盛と評されて久しい。今年1月の初場所（東京・国技館）の番付では白鵬、鶴竜の両横綱を始め、序ノ口まで661人の力士の中で外国出身者はモンゴル勢23人を筆頭に8カ国から31人いた。これは全体で見ると5%未満に過ぎない。しかし、給与が出る十両以上の関取70人に限ると、17人。約4分の1の24%だ。モンゴル勢だけで考え

ると、23人中13人が十両以上の関取になっている。

外国人力士は昭和から

五穀豊穡を願う神事から始まったとされる相撲は、古事記や日本書紀にも描かれている。興行である勧進相撲が定着したのが江戸時代。最初の旧国技館が建設されたのが1909（明治42）年だ。現在の日本相撲協会の前身である大日本相撲協会の誕生は25（大正14）年。外国出身力士の登場は昭和の時代に入ってからだ。

相撲は野球やサッカーなどのプロスポーツと違い、競技経験が全くなくても入門出来る。現代は学生、社会人で経験を重ねてプロ入りする者が増えたが、元々は体格を見込まれ、貧しさを抜け出す手段として力士を選ぶ初心者がほとんど。彼らは仲介者からの紹介や直接関係者から声をかけられる形でスカウトされ、プロになる。外国出身者も当初は同じだった。

その「先駆者」と言えば、多くがハワイ出身で元関脇の高見山を思い浮かべるのではないか。進歩的だったと言われる元横綱前田山の高砂親方にスカウトされて、アメリカンフットボールをしていた20歳の青年が海を渡った。全盛期192cm、205kg。もみあげがトレードマークで、強烈な突き押しを武器に優勝1度。輪島に強く、横綱を平幕が倒す金星は今も歴代2位の12個獲得。幕内在位97場所、幕内出場1430回は歴代3位の記録だ。引退後、東関親方となった彼と銀座に出向いた際、タクシーを降りた瞬間に四方から「高見山だ」という歓声が飛び交った記憶が鮮明に残る。ファンに笑顔で手を振る親方。日本国民に深く愛された存在だった。

確かに高見山は戦後の入門第1号、純粋な外国出身者でも最初の力士である。だが、相撲協会の資料によると、正式な第1号は34（昭和9）年に初土俵を踏んだアメリカ・ロサンゼルス市出身の日系力士平賀将司。彼は本名の平賀で土俵に上がり、最高位

は番付で下から2番目の序二段。以降、計7人の米国出身の日系力士が戦前にデビューしたが、関取まで昇進したのは38（昭和13）年初土俵の豊錦1人（最高位西前頭20枚目）。終戦の年、45（昭和20）年夏場所の番付には朝鮮、樺太、台湾が出身地とある力士が計13人いたが、戦後は全員が日本国内出身に変更された。彼らは元々、外国人扱いになっていない。

豪快に勝ち、豪快に負ける

相撲の海外普及は日本人が移民した地域から始まり、相撲界への入門も当初は日本人と体格、見た目もそう変わらない日系人のみ。成績も振るわなかった。だが、前回の東京五輪が開催された64（昭和39）年に初土俵を踏んだ高見山の活躍が角界に衝撃を与える。日本人以外で初の優勝だった72（昭和47）年名古屋場所では、当時のニクソン米大統領から祝電が届いた。愛らしい笑顔も人気でテレビCM

に採用されたほか、それまで無かった鮮やかなオレンジ色のまわしで登場。華やかさが受け、黄金を着けた輪島とともにまわしのカラー化の走りにもなった。

つらい稽古は「目から汗が出た」との名言で乗り越えた高見山だが、下半身に難点があり、強さともろさが同居していた。巨体を生かして豪快に勝ち、豪快に負ける。それが魅力でもあった。ところが、それを越えるインパクトをもたらしたのが、高見山がスカウトした同郷ハワイ出身の小錦だった。82（昭和57）年初土俵。284kgという歴代最重量関取は入幕2場所目には千代の富士、隆の里の両横綱を破り、「昭和の黒船来襲」と恐れられた。87（昭和62）年には外国出身者初の大関に。優勝3度。綱とりに手をかけた。

土俵内の戦い、土俵外の戦い

当時、小錦は本当に強かった。だが、「相撲はけ

んか」と公言する姿勢に反感もあった。「横綱には力量だけでなく、拔群の品格が必要」と強く訴える有識者からは「外国人横綱不要論」なる意見が出され、小錦も「僕が横綱になれないのは外国人だから」と話したと報道された。一連の騒動は人種差別発言として物議を醸した。当時の彼は土俵の外でも常に戦っていた。結局、小錦は重圧に負けた形で横綱昇進は出来なかった。悔しかっただろう。ファンを巻き込み、角界の最高位に外国出身力士が座ることへの敵対心があらわになった初めての出来事だった。

その後、横綱不在の時期を埋める形でハワイ出身の後輩・曙が93（平成5）年に史上初の外国出身横綱に昇進した。高見山、小錦の苦難があつての頂点だった。99（平成11）年には武蔵丸もハワイ勢2人目の横綱として続く。平成の中盤以降はモンゴル勢が土俵を席捲した。2003（平成15）年朝青龍、07（平成19）年白鵬、12（平成24）年日馬富士、14（平成26）年鶴竜と4人続けて横綱が生まれた。稀

勢の里が日本出身者で19年ぶりに綱を張ったのは17（平成29）年のことだった。ちなみに今は毎場所ある外国勢同士の対戦だが、初めての取組は75（昭和50）年秋場所に行われた、まだ番付にも載っていない友ノ島（トンガ）―末次（米国）戦だった。幕内では91（平成3）年春場所で、当時大関だった小錦が小結に昇進した曙と当たったのが最初だ。

躍進と制限

外国出身力士は土俵上での圧倒的なパワーとともに、土俵を降りると残念なトラブルも数多く引き起こした。記憶に新しいところでは、数々の不祥事を起こした朝青龍と日馬富士の2横綱が、暴力に絡んで現役を引退した。若ノ鵬、露鵬、白露山（いずれもロシア）の大麻事件も衝撃的だった。古くは、現在の友綱親方（元関脇旭天鵬）も加わっていたモンゴル力士数人の大使館への脱走。トンガ力士の集団廃業もあった。その他にも言葉や食事の壁、上下関

係で成り立つ独特の部屋制度になじめず、角界を去るケースを数え切れないくらいに見た。外国出身力士は「米びつ」でもあるが、「頭痛の種」にもなる。このため、相撲協会では早くから外国出身者の躍進を恐れ、入門に制限を加えてきた。

最初に、「外国人は総数40人以内、1部屋2人以内」と定めたのは、出羽海理事長（元横綱佐田の山）時代の92（平成4）年。この年は旭富士と北勝海の引退で横綱が空位に。大関は霧島の転落により、小錦と昇進した曙で番付の東西上位2人を初めて外国出身者が占めた。だが、実はそれより前の88（昭和63）年に二子山理事長（元初代横綱若乃花）が当時幕内だった南海龍（サモア独立国）の無断休場Ⅱそのまま廃業Ⅱを問題視して各部屋に外国勢のスカウト自粛を申し入れている。入門規制は02（平成14）年の「1部屋外国人1人」を経て10（平成22）年に「1部屋外国出身者1人」になった。日本国籍を取得した外国出身者がいる場合に、もう1人入門させ

る例を防止するためだった。

また、大鵬の記録を抜いて歴代最多の優勝回数を更新している白鵬の衰えが指摘され始める中で改めて話題になったのが、力士が引退後に相撲協会に残るために必要な年寄名跡の取得に「日本国籍を有する者」との項目があることだった。76（昭和51）年に協会の理事会で決定されたが、これは高見山が初優勝してから4年後、まだ幕内で活躍を続ける頃だった。当時を知る好角家は、「それまでの角界は『外国人なんてすぐに辞める』と、全く相手にしていなかった。それが、高見山を見て将来への不安が生まれた。年寄名跡の国籍条項は、明らかに高見山を意識したものだった」と話していた。

年寄になるために日本国籍が条件である理由を相撲協会は、「相撲は日本の伝統文化。歴史としきたりを正しく弟子たちに教えて行くためには、外国人では難しい」と言ってきた。これが外国人への差別ではないか、という議論の是非はさておき、確かに

大相撲は単純な競技としての力士の勝ち負けだけではなく、ちゃんまげを結い、和服を正装とする普段からの立ち居振る舞い、土俵入り、仕切りなどに見られる所作や礼儀作法、様式美が魅力なのは間違いない。そこには日本人が愛する「心・技・体」の精神があり、力士には土俵の内、外で他のプロスポーツ選手以上の厳しさを求める。それは日本人を含め、どこの国の出身者にも変わらない要素である。

過去から現在まで約200人が在籍した外国出身力士の中で、日本国籍を取得して年寄名跡を手にした親方は9人。うち、現在、師匠として部屋を運営しているのは元横綱武蔵丸の武蔵川親方と元大関琴欧洲（ブルガリア）の鳴戸親方、元旭天鵬の友綱親方だけだ。近い将来、この中に白鵬が加わるのは間違いないだろう。「令和」を迎えた新時代で相撲界はどう変貌していくのか。東京五輪の行方とともに注目して行きたい。

第7回 スポーツ・ セカンドキャリア・ フォーラム

司会=長田渚左

松 修康

×

小野 仁

×

岸川登俊



日本野球機構の2018年のデータによれば、プロ野球選手の平均引退年齢は29.7歳、平均在籍年数は9.5年。子供の頃からのあこがれの職業、プロスポーツ選手になっても、現役生活はいつか必ず終わりを迎える。アスリートの引退後の第二の人生を考える本フォーラム、今回は同じ企業で働く元プロ野球選手3名に体験談を披露してもらった。

愚痴か溜息か舌打ちの現役時代

——本年度、第7回スポーツ・セカンドキャリア・フォーラムにはスピーカーとして、現在株式会社白寿生科学研究所に勤務されている元プロ野球選手3名に来ていただきました。白寿生科学研究所は「ヘルストロン」という高圧電位治療器の開発、製造、販売を中心に、健康食品やサプリメントなども扱っている会社です。2013年に入社、現在事業開発部で働いておられる松修康さん、そして2017年10月入社の小野仁さん、2018年9月入社の岸川登俊さんのおたりは人材開拓課の所属です。3人とも奇しくも現役時代はサウスポー、左投手でした。皆さん、子供の頃の将来の夢は何でしたか？

松 プロ野球選手です。

岸川 私もプロ野球選手です。

——お二人とも小さい頃からの夢を叶えられたわけですね。小野さんは？

小野 僕も「プロ野球選手」と言いたいところですが、けれども、本当のこと言いますと、佐川急便のドライバーになりました。プロ野球選手は二番目でした。プロ野球終わってから10年間で8回仕事替わってるんですけど、その中で佐川急便のドライバーも経験させていただきました。

——ということ、小野さんも夢を叶えられたようです。それでは皆さん、プロ野球の現役時代、どんな選手でしたか？

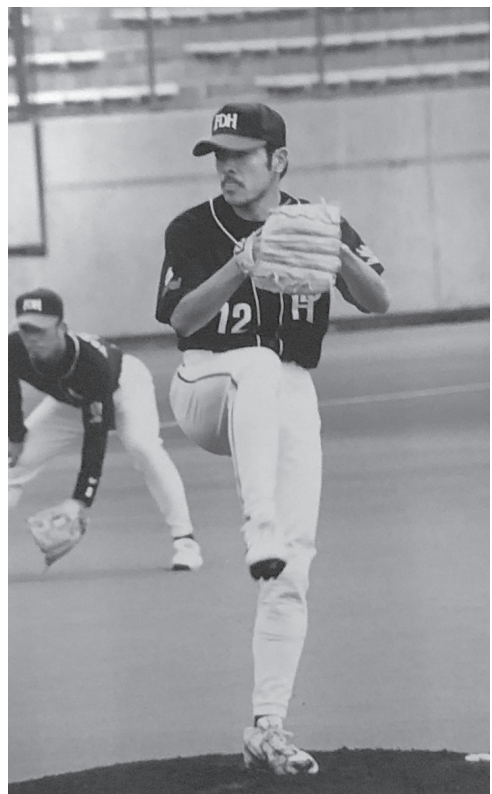
松 自分は現役選手時代の7年間、ずっとうまくいかずに悩んでいました。愚痴か溜息か舌打ちか……そんな毎日でした。大学生までは何が何でもプロ野球選手になるって目標があつたんですけど、プロ野球選手になった瞬間に、一年でも長くできたら良いやっていう、気持ちが弱い人間になってしまったんです。毎日愚痴って、練習よりお酒の方に逃げているような人間でした。

——小野さんはどんなプロ野球選手でしたか？

アマチュア時代は、94年、秋田経法大付属高校3年生の時に高校生として初めて日本代表に選ばれて、キューバとの試合でパチエーコ、リナレスという主軸打者を2者連続三振。キューバの監督がキューバに連れて帰りたいと言うほどの逸材でした。

小野 はい、おっしゃる通りです。素晴らしいボールを投げてたなあという感触があります。ただ僕はボールをつかんで投げれば速かった、っていうだけの選手で、野球選手と言うよりせいぜい野球小僧でしたね。もともとコントロールが悪くて、プロでフォームを改造されて、トレードを機に心機一転フォームを戻そうとしたんですけども、昔のフォームを忘れて、投げ方も忘れて、ますますストライクが入らなくなつた。いわゆる「イップス」ですね。当時野球界ではあまり使われていない言葉でしたが、もともとゴルフで精神的な緊張から短いパットがまともに打てなくなるような症状を言います。

——岸川さんはどんなプロ野球選手でしたか？



岸川 プロ野球に入っただけで小さい頃からの夢が叶ってしまったというようなところがありましたから、1年目の開幕から1年間一軍にいさしてもらったんですけど、そこから上り詰めようというような向上心を持ってなくて。こういうものかと思つて続けていたら、どんどん新しい子が入ってきて、どんどん抜かれていつて、あれ、俺何やってんだろうつて言つてる間にトレードに出される。そんな感じで何かあれよあれよという間に現役選手生活が終わつてしまいました。



松 修康（まつ・のぶやす）1976（昭51）年7月23日、神奈川県横浜市生まれ。宇都宮学園高から東北福祉大を経てドラフト2位（逆指名）で99年、福岡ダイエーホークス入団。実働4年、59試合1勝5敗0S。2006～07年、横浜ベイスターズの打撃投手、08～12年、北海道日本ハムファイターズの打撃投手、08北京五輪日本代表、09WBC日本代表の打撃投手を務めた。左投左打

プロ野球を去る日がやってくる

——現役を終えられた後、岸川さんはジャイアンツで16年間バッティングピッチャー、打撃投手をおやりになった。打撃投手って1年間に3万球投げるそうですね。しかもバッターが気持ちよく打てるボールを投げなきゃいけないんでしょう？

岸川 そういうふうに考えると、何て言うか、自分の技術が狭まるんですよ。さっきの小野じゃないですけど、イップスとかにもなってしまうので、自分のフォームで投げればストライクが入ると、自分に言い聞かせるのが大事ですね。それが自信になってストライクが入る。そのストライクが入る球が良い回転になるので、バッターも気持ちよく試合の準備ができるって、そういうふうに私は考えてました。そこで他人のためって思って投げるとプレッシャーがかかって、その気持ちがボールに乗り移ってちよつとタレたり、ちよつと曲がつたり、そういうことが



小野 仁 (おの・ひとし) 1976 (昭51) 年8月23日、秋田市生まれ。秋田経法大付属高2年時に春夏連続で甲子園出場。94年、高校3年時に日本代表に選出され、アマチュア凍結選手となり95年、日本石油に入社。96年、アトランタ五輪銀メダル獲得。ドラフト2位 (逆指名) で97年、読売ジャイアンツ入団。2003年、大阪近鉄バファローズへ移籍。同年戦力外通告を受け退団。実働5年、36試合3勝8敗0S。左投右打

起きるんですよ。

—— 打撃投手として非常に評価が高かった岸川さんですが、それでもプロ野球選手をやめなければならない日が来ます。

岸川 私が43歳の時に、ジャイアンツが打撃投手は45歳までという定年制度をつくったんです。それで定年後の就職先もスポーツメーカーに決めました。ところが私、高橋由伸と10年間個人練習みたいなかたちでやらしてもらっていて、定年のタイミングがちょうど高橋が監督になる時だったんですね。監督から力を貸して欲しいと言われて、決まっていた就職先も断って、結局もう2年ジャイアンツにお世話になりました。47歳の時にほんとの定年を迎えたんですけれども、さあそこからどうしようと。東京ガスで7年間社会人経験はありますが、普通のサラリーマン生活をしていないですから、パソコンも使えないし、何のスキルも身につけていない。持っているのは運転免許証ぐらいです。実際50歳手前の人間を

雇ってくれる企業などなかなかいいことを考えた時に、家族を養っていくには長距離トラックの運転手さんとか、それがダメなら交通整理とか、そういうところまで腹をくくりました。

野球に代わる何かを見つけられずに

——小野さんは10年間で8回転職されたというところですが。

小野 心の中は野球100%の野球小僧でしたから、バファローズから戦力外通告を受けた時には心にぽっかり穴が開いた状態です。そこで立ち止まってよく考えて、しっかりと仕事として志を持てる職業に就けば良かったんですけども。ただ目先のうまい話に乗っかって……。

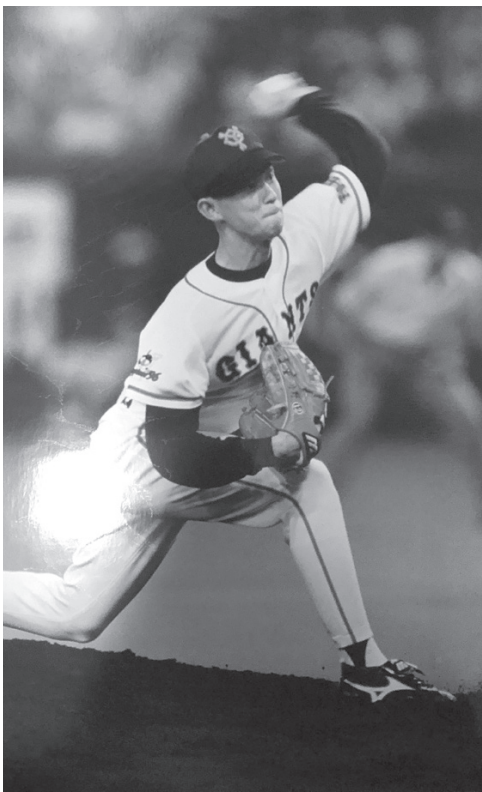
——うまい話？

小野 お金ですね。タウンワークで手っ取り早く高収入という基準で仕事を選びました。最初は床清掃の仕事です。これが一番長くて4年半。その後はさ

つき言った佐川急便のほかにもパンの配送をやったり、椅子の製造工場でも働きました。焼鳥屋のアルバイトもやりましたし、キャバクラの黒服もやりました。すべてお金で選んでましたね。

——それぞれ長く続かなかった理由は何でしょう？

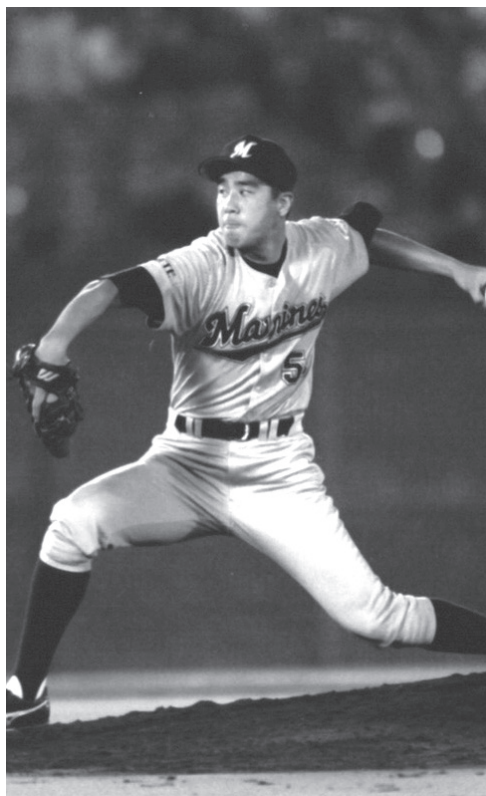
小野 仕事は一生懸命、真面目にはやっていました。だけどその仕事を究めてやろうというような志は持たなくて、だからちよつといやなことやつらいことがあつたらすぐに次っていうふうで。結局野球に代



わるものが自分の中で見つからなかった。

松 小野とは年が一緒に同じ左ピッチャーで、高校時代は雲の上の存在でした。ところが久々に彼と会って驚いたんです。昔の輝いている時とは眼が違ってました。やっぱり頑張ってる時って眼が鋭いじゃないですか。それが穏やかと言うか元気がなくて、相当苦労している様子だったんで、「何してんの？」って声をかけたんです。

——松さんはすでに白寿生科学研究所にお勤めで、その再会がきっかけで小野さんも入社されることになります。松さんの場合はいかがだったんですか？
松 選手をクビになった時には嫁のおなかの中に子供がいて、早く仕事探さないといけないと焦りました。たまたま横浜ベイスターズからバッティングピッチャーの話をいただいて飛びついたんです。ベイスターズで2年、その後ファイターズで5年。ファイターズでは先輩たちがよく次の人生どうしよう、40歳過ぎたら職がないぞって言いながらお酒を飲ん



でいたんで、そろそろ考えないと思いつつ、結局真剣に考えないで過ごしてしまいました。

だからファイターズをクビになった時にはパニックって、頭真っ白になりました。2012年のことで、この年はリーグ優勝してジャイアンツと日本シリーズを戦って、東京ドームで負けてシーズンが終わって、数名はそこでクビを宣告されたんです。マネージャーに、「俺、大丈夫？」って聞いたたら、「松さんの名前は入ってないんで、明日の朝みんなと一緒に飛行機で札幌に戻ってください。そこで解散で



岸川登俊 (きしかわ・たかし) 1970 (昭45) 年1月30日、東京都大田区生まれ。88年、安田学園高を卒業し東京ガスに入社。ドラフト6位で95年、千葉ロッテマリーンズ入団。98～99年、中日ドラゴンズ、2000～01年、オリックス・ブルーウェーブに在籍。実働7年、87試合0勝4敗0S。02～17年の16年間、読売ジャイアンツの打撃投手を務める。左投左打

す」と。当時横浜に住まいがあつて、嫁には、「今年も大丈夫。優勝旅行はハワイらしいよ」って言うて、次の日札幌ドームに着いてクビを告げられました。

『野球しかない人生』というレール

—— トップスポーツ、エリートスポーツをやっているれば必ず終わりが来ます。Jリーガーの現役生活は平均6年、25歳ぐらいでいたい終わるし、プロ野球はそれより4年ぐらい長いんですけど、必ず終わりが来ます。その前に少し勉強するとか、何年か先に終わることを想定して今から何か準備するとか、そういうことは考えられませんでしたか？

松 僕が今思っているのは、少年野球や高校野球の指導者やまわりの大人たちが、僕らを野球だけの人生、野球しかない人生というレールの上に乗るよう仕向けてきたということですね。ほかのスポーツや勉強も一生懸命やりながらではなく、野球だけに集

中しろと言われ続けてきた。高校生になると野球だけやっていて勉強しなければやっぱりテストで点数取れないですよ。点数取れないと、お前はバカだと言われて、だんだん自分でもそう思うようになる。

——ある意味勉強しなくても人生の扉がバンバン開いちゃった世界ですからね。

岸川 正直勉強する時間がなかったですね。私の場合は朝6時に起きて、練習で疲れ果てて家に帰ってくるのは11時ぐらいでしたから、それからご飯食べてお風呂入ったらもう12時超えてしまう。授業中ずっと起きていたら身体がもたないです。

松 ホークスに「六法全書」を読んでいるチームメイトがいました。でも、お前は野球に集中してないからダメなんだって、それを否定する指導者もいましたね。僕はホークスに入ってきた外人選手とよく食事したんですけど、彼らは人生よく考えていて、日本で稼いで、田舎の牧場で一生バードウォッチング、バードハンターになって暮らすんだってやつも

いましたし、一番仲良かったのはズレータっていうドミニカの選手ですけど、「俺はドミニカに帰った



原浩之副社長

時に一生遊んで暮らせるだけのお金を日本で稼ぎに来た。お前は何のために野球をやっているのか？」って彼に聞かれて、僕は答えられませんでした。城島（健司）は釣りが大好きで、現役時代から、引退したら俺は釣り師になってテレビで釣りの番組持ったって言うていて、今実現させていますよね。だから考えてるやつは誰に言われなくても考えてる。僕は何かかなるだろう状態でしたね。

——ここで角度を変えて、採用する側にお話を聞きます。白寿生科学研究所には複数の元プロ野球選手やほかのスポーツのトップ選手が働いておられますが、副社長の原浩之さん、彼らには会社員として特別な何かがあるのでしょうか？

巡りあいとマインドセットの大切さ

原 野球以外ではセパタクロー、ラクロス、アルティメットのトップ選手を採用していますが、たとえばセパタクローだったらだいたい高校時代までサッカーをやっていて、大学に推薦で入れないようなレベルの選手が転向してトップになることが多いんです。彼らはこの競技だったらトップになれるかもっていう目で競技を探してトップになっている。だからマイナーな競技の日本代表クラスは頭が良いです。仕事もすぐ覚えます。

一方元プロ野球選手は「鰻」という漢字が読めなかったり、「ボージョレヌーボー」を英語読みしたり、大変なエピソードばかりですけど、甲子園やプロ野球の大きな舞台で頂点に立ったり敗北や挫折を経験しているからでしょうか、総じて人に伝える力に優れている。一生懸命お客様に語りかける時の説得力は大きいです。2006年に都城高校のエースだった

た元ダイエーホークスの田口竜二を採用してから間違いなく戦力になるのが分かって、現在在社しているプロ野球OBは7名です。

今日の3人の中で一番長く働いてくれているのは松ですが、日本シリーズが終わった翌日に札幌で戦力外通告を受けて、帰ったらすべてがなくなっている、嫁さんにも言わなきゃいけない、新千歳空港で泣きながら最終便まで飛行機ずらしたっていう話をフェイスブックに書いたのをホークスの先輩でもある田口が見て、「どうしたの、松？」って声をかけた。田口に会いにうちの会社に来たら、ホークスの球場に置いてあった「ヘルストロン」があつて、「どうしてここにあるんですか？」「うちの会社の製品だよ」っていうところから縁を感じて入社することになったんです。ところがその後イーグルスからバツティングピッチャーで誘われて、ああ行っちゃうかなと思ったんですけど、そっちを断わって、思いのほか強い気持ちで入ってきてくれました。

松 正直パソコンの電源の入れ方からして分からなくて、隣の社員に、教えてもらうところから始めました。野球しかない人生のルールに乗ってきて、いざ野球をあきらめないといけないという時に、僕が田口に巡りあつたように、社会人で活躍している人、いろんなセカンドキャリアの経験者に巡りあえるかつていうのがすごい大事なのかなと思います。

もうひとつ思うのは、野球しかやってこなかったとか、何々しかしてこなかったことがどうして
もネガティブにとらえられるんですが、僕は、「それって何かに長けてるってことでもあるんだ」と言いたいんですよね。「他の人にはできなかったことが君にはできた。そのことには自信を持ってい。それに代わる何かを考えよう」って。第一の人生、野球で輝いた。じゃあ次の人生も何かで輝こうということですね。

小野 今、全国に約400店舗ある体験型ショールーム白寿プラザの店長として頑張ってくれる人材を

獲得するために、日々大学の野球部に足を運んでいます。僕自身が野球を終えた後に野球に代わる確かなものが持てなかったのも、そういったところの気持ちの切り替え——「マインドセット」という言葉を田口竜二が教えてくれましたが、社会人に進む時には一度野球をすっかり切り離して社会の波に船出をしよう。そこで野球で培ったことを生かせるよう頑張っただけというのを、学生たちに伝えています。

岸川 昨年9月に入社して、今、小野と一緒に働いています。この春に巣鴨店で研修をさせて頂いて、初めてお客様に「有難う」って言っていただきまして。バッテリーピッチャー時代も選手たちに「有難う」って言ってもらえるのがすごい励みになりました。人の役に立つ仕事、私は好きですね。

(本稿は2019年11月27日に東京・渋谷区ハクジュホールで行われた「第7回スポーツ・セカンドキャリア・フォーラム」を再構成したものです)

夢劇場『馬』

No.19



涼しい顔で……

藤田菜七子騎手が落馬して負傷したニュースは大きく報じられた。

2月15日、小倉競馬場での5R。向正面で馬群が密集する中、藤田騎乗の馬の前脚が前の馬と接触して、バランスを崩して落下した。競馬に落馬はつきものとはいえ、女性騎手と聞くといったまじさが増す。

実は彼女は16年のデビュー以来、何度か落馬している。女性ということもあり、そのたびに話題になった。今回は後続の馬がいなかったので、回転して受け身も取れたらしい。左鎖骨の骨折だけで済んだことは不幸中の幸いだったと思う。

藤田はアイドル並みの可愛らしさで絶大な人気を誇る。彼女が騎乗すると、それだけで応援馬券が増えて、売り上げが上がる。だから当然、やつかみもある。騎手は男も女も関係のない勝負の世界。なのに“女に負けると悔しい気持ち”が倍加す

る”という男性騎手の声を聞いたことがある。

日本には少し前まで“女性に不向きだ”と言われる迷信が少なくなかった。車の運転もその一つ。工事中のトンネルに女性が入るのもタブーだった。実はスポーツの世界で長く取材をしてきた私も、プロ野球日本シリーズで或る監督に“試合の前に女性としゃべるのは嫌だ”と取材を拒否されたことがあった。取材をOKしていた球団の広報も驚いていたが……。

今も男社会で女性が仕事をする難しさ、厳しさは消えていない。競馬の世界もしかり。

“鎖骨骨折”と聞いて、或るベテラン騎手はこう言った。「この世界は肋骨、鎖骨はケガに入らない。昔ならテープをぐるぐる巻いて、知らん顔して（馬に）乗ってたもんだよ」。

ケガが治れば藤田もまた涼しい顔で馬に乗るだろう。なにしろ彼女はG1騎乗、重賞制覇と着実に結果を残し、通算100勝まであと3つ。男女の壁を超えてきたのだから。



バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。

〒352-0011

埼玉県新座市野火止8-16-32

株式会社東美物流

『スポーツゴジラ』係

送料値上がりのため45号より変更しました。

10冊まで 送料 400円

20冊まで 送料 700円

40冊まで 送料 1200円

※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

【ホームページ】

<http://sportsnetjapan.com/>

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えていただくと幸いです。

次の夏号47号は2020年6月中

旬刊行を予定しています。ご期待ください。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館でお読みになれます。ご利用ください。

●世田谷区八幡山・大宅壮一文庫

●世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館

●港区広尾・東京都立中央図書館

●千代田区永田町・国立国会図書館

【理事】

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／長田渚左（ノンフィクション作家）／笠原一也（日本オリンピック・アカデミー名誉会長）／佐久間昇二（びあ株式会社取締役）／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）／永井憲一（法政大学名誉教授）／山口香（筑波大学教授）／山口良治（京都工学院高校ラグビー部総監督）

【事務局】

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学部太田章研究室気付

皆様、ご存じでしたか？

『スポーツゴジラ』が置かれている都営地下鉄（大江戸線、浅草線、三田線、新宿線）では、ラジオのAM放送を聴くことが可能です。緊急時の情報収集などに役立ちます。

スポーツゴジラ®

2020年3月11日発行
第1巻第46号

無断転載を禁じます

企画編集 スポーツネットワークジャパン

長田渚左・川本凜太郎・阿部雄輔

波多野圭吾・西本祥子・江川卓美

平塚貴大・山内亮治・鈴木希人

制作 有限会社ナトリック

印刷・製本 図書印刷株式会社

発行 スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0063

杉並区和泉1-40-13-401